

環境ブリーフィングのガイドライン

ブリーフィング時に、環境を守るためにダイビング中やボート上でどんな行動をして欲しいのか、ゲストに伝えましょう。また、なぜその行動をして欲しいのかという理由や方向性を示すことが大事です。実際に環境ブリーフィングを行うことが、ダイバーによる環境へのダメージを減らす有効な手段だという研究結果も出ています。以下のリストにはブリーフィング時に説明すべき要点がまとめられています。グリーンフィンズアイコンとそのガイドラインもあわせて活用しながら、ブリーフィングを実施しましょう。

ボートブリーフィング

✔ トイレについて



トイレに流されるものは全て海に排出されます。ティッシュはゴミ箱に捨て、ダイブサイトでは使用を避けるよう呼びかけましょう。

✔ ゴミを捨てない



海洋ゴミはウミガメや鳥、サンゴを殺す可能性があります。ゲストへ船の上でのゴミの正しい廃棄方法を示しましょう。生ゴミなど海に影響を与えないとされるものも正しく廃棄しましょう。

✔ 灰皿を使用する



タバコの吸い殻は海に流出しやすく、海洋生物にも害を及ぼします。ゲストが適切に廃棄できるよう灰皿を用意し、ブリーフィングでも注意しましょう。

✔ 魚の餌付けをしない



魚の餌付けをしないことは、サンゴ礁を守ることに繋がります。船から海に食べ物を投げ入れると、魚は本来自然から得られる食べ物ではなく、投げ入れられたものに引き寄せられます。食物連鎖が崩れ、魚は藻類を食べなくなり、サンゴ礁を覆った藻類は光合成を阻害しサンゴの病気の原因となります。

ゲストが環境にやさしいダイビングができるよう、自身が手本となり積極的にサポートしましょう

ダイブブリーフィング

✔ 接触しない



サンゴ礁に触れるとサンゴ礁を傷つけ、病気を広める可能性があります。また、サンゴ礁に棲む海洋生物のすみかを荒らしたり、直接触ったりしてしまった場合、その生き物が生息地から離れ、捕食者に狙われやすくなります。そのため指示棒やカレントフックは岩石だけに使用し、決してサンゴには使わないようにしましょう。ゲストに岩とサンゴの違いを説明し、中性浮力を保つように指示しましょう。

✔ サンゴから離れる



サンゴをフィンで蹴ってダメージを与えないよう、ゲストに中性浮力を保ち、サンゴから離れるよう促しましょう。また、サンゴ礁に近づきすぎないことで、海の生き物は安心するため、より自然な行動を観察することが出来ます。

✔ 手袋を着用しない



手袋は怪我を防止するために着用されますが、一方で水中の生物やサンゴに触りやすい環境を作ります。生物やサンゴを触ると、傷つけたり病気を広めたりしてしまう可能性が高く、着用は推奨されていません。また、危険度の高い毒を持った海洋生物などは手袋だけでは防ぐことは難しいため、生き物に触りやすくする手袋の着用は控えましょう。一部のダイブサイトでは、ダイビングの際に手袋の着用を禁止しています。

✔ 全ての機材を固定する



ダイバーが身に着ける機材が、知らないうちにサンゴを傷つけてしまう可能性があります。サンゴにぶつけないように、BCDクリップでゲージやオクトパスを固定しましょう。

✔ 海洋生物を収集しない



海の生き物は海の中にいるべきです。生きていても、死骸であっても、海洋生物を収集することは違法となるケースが多く、海の生態系を乱すことにつながります。水中で発見した海の生物は持ち帰らないよう指示しましょう。

✔ 水中撮影時の行動に責任を持ちましょう



ある研究によると、水中写真を撮るダイバーは他のダイバーよりもサンゴ礁にダメージを与えているといわれています。水中写真を撮るダイバーに対して、ダイビング中は常に中世浮力を維持するように促し、必要に応じて指示を出しましょう。フラッシュの使い過ぎは、多くの生き物の行動に影響を与え、害を与えることにつながるためフラッシュの使用は最小限に抑えるように指示しましょう。